

＝物語教材で「書くこと」を大切にしたい授業の取り組みについて＝

1. 個人学習（一人読み）と出会うまでの私の歩み

①主体的学習

華々しい子どもの話し合い活動へのあこがれ

← 学習パターン・発言の仕方を徹底訓練

子どもだけで授業を進められるほどになる。

形式主義への疑問

②深い教材解釈に裏打ちされた質の高い授業へのあこがれ

← 発問・展開の工夫

← 現実には重苦しい授業の連続

・子どもを置き去りにした教師のひとりよがりな授業を捨てよ。

全否定された私の授業

③個人学習（一人勉強）との出会い

（元御影小 田村省三先生からの学び）

・教室には一読すれば主題まで読み取れる子もあれば、あらすじを取るのも難しい子もいる。そういう様々な段階にある一人ひとりに学ぶべきを具体的に教えてやることこそ教師の仕事ではないか。

2. 個人学習（一人勉強）の意義

① 全員が動く学習になる

一斉学習では、話し合い活動が中心になることが多い。だが、全員が話し合いに参加して発言することはなかなかできることではない。活発に発言する子でも、1時間のうち5分もしゃべれば多い方ではないだろうか。

つまり、大半の子は、45分の授業のほとんどを聞く側ですごすのである。45分間集中して聞き続けるというのは、大人でもむずかしいことではないだろうか。まして、授業はいつもよどみなく展開しているとは限らない。いや、むしろ、あっちこっちでつかえ、展開していかない場合の方が多いのだ。活動エネルギーに満ちた子どもたちにとって、わかりにくい話し合いを1時間聞き続けると

というのは、苦痛以外の何物でもない。

それに対して個人学習は、一人ひとりが教材に対して能動的に働きかける作業である。話し合い活動では、ぼんやり聞いていてもそれで済んでしまうが、個人学習では、自分が動かないかぎり、何も進んでいかないのだから、積極的にならざるを得ない。その分、一人ひとりの学習の密度が格段に濃くなるのである。それとともにまた、主体的に読む姿勢も育っていく。

② 自分のあしどりに合わせて読める

「もともと読むことは、究極においてはひとり読みである。それは、自力の読みとも言えるし、主体的な読み、個性的な読みともいえるだろう。」と今井鑑三氏は言われる。小松善之助氏も、「読みはあくまで、自分の目で、自らの頭で読むものである。自分の歩幅にしたがい、自分の呼吸にあわせ、自分の心臓に聞いて立ち止まるものである。読みは、もともとひとりのものである。」と、ひとり読みこそが読む活動の中核なのだと言われる。私もそう思う。

ところが、一斉学習では、みんなで考え合うわけだから、追究する課題も限定され、ひとりひとりの自由な読みが保証されにくい。また、授業の展開はどうしても反応の速い子のペースで進むことが多く、じっくり考える子、理解に時間のかかる子は、授業に流されてしまうことになる。そういう子どもたちにも自分のペースで、自分が一番学習したいことにじっくり取り組む場を保証してやりたい。個人学習はその有効な場と考える。

③ どの子どもが一斉学習に参加できる土台ができる

自分の読みが十分にならないまま、一斉学習の話し合いに参加しても十分な追究はできないだろう。まして、読む力の弱い子にとっては、みんなの意見を聞くのが精一杯というのが実情ではないか。少し込み入った議論になれば、問題意識のうすい子などは授業から離れてしまう。

人の意見が聞ける、あるいは、聞こうとするのは、自分の中に問題意識があり、それについての自分なりの考えを持っている時である。個人学習は、自分の読みを持ち、自分なりの問題意識を持たせること、つまり、一斉学習でどの子ども話し合え、聞き合えるだけの準備をさせる場といえる。

④ 明確な読みの力がつく

個人学習は、ノートを使って自分の読みを書き込んでいく「書き込み」の作業がその中心になる。自分の読みを書くことは、話すことに比べてずっとむずかしい。自分の読みを吟味し、言葉を選んで書きつけていくのは、かなりの集中力を要する作業である。だが、それだけに明確で筋道だった読みに練り上げることができる。確かな読みの力を育てる場としても個人学習は重要なのである。

⑤ 子どもの読みをさぐり、子どもに即した授業をつくるために

子どもの学習ノートを見ることによって、その子がどんな読みとりをしているのか、どんなところを問題にしているのか、また、読み落としているのはどんなところか、といった一人一人の読みの状況が把握できる。中には、教師が解釈していなかったような鋭く新鮮な読みを子どもがしていることもある。そういう子どもの読みの実態をとらえ、子どもらしいふくよかな感性に学びながら、それをもとにして、子どもの読みの状況に即した一斉学習の構想をたてる。これこそ、子どもに即した授業の原則ではないかと考える。

3. 個人学習の進め方

一口に個人学習といってもその内容としては、音読・あらすじどり・難語句調べ・書き込み読みなど、さまざまの学習活動がある。その一つ一つについて、ていねいに学習の仕方を教えてやる必要がある。だから、まだ個人学習の経験が少ない学級であれば、いきなり長編の教材で取り組むのではなく、短編の教材を選んでやった方が無理がない。また、1つの教材で何もかもやろうと思わず、特に重点的に指導したいことをしばってやったほうがいいだろう。私は、そう考えてやってきた。

最終的には、子どもたちが何の助けも借りないで自力で個人学習を進める力をもつことが目標だが、それは、すぐに達成できるものではない。だから、学級の習熟度に応じて個人学習の手引きを作つてやるとよい、と田村省三先生は提唱された。

田村先生に学びながら、私が、試みた一人勉強の手引きの例を挙げてみる。

(1) 一人勉強の基本的な手引き例

勉強というものは、自分の力で進めることが大切です。自分で考え、自分の力で解決することができるようになれば、どんどん力がのびていきます。

自分で読み進める力をつけるためには、次のようなことができるようになってほしいのです。今は、手引きとして作っていますが、やがてはこれがなくてもできるようになってほしいと思います。

①まず、スラスラ読めるまで何度も声に出して読んでみよう。

まず、読んでみましょう。読めない字、わかりにくいことはなどがあるでしょうが、かまわず読むのです。何度か読めば、読みにくいところもだいたいのけんとうがついてくるものです。

小さな声で読む方が、はやくじょうずに読めるようになります。

大きな声で読む方が、はやくじょうずに読めるようになります。

◎どうしても読めない漢字があれば、先生や友達にたずねましょう。

②線を引きながら、くりかえし読もう。

これは、①のしごとをする時から始めてもよいのです。

読んでいるときに、意味のよくわからないことばがあるでしょう。それから、「おもしろいなあ」「かわいそうに」「やさしいなあ」「へんだな」「どうしてそんなことするんだろう」などと、いろんなことが頭にうかんでくるでしょう。

そういうことがうかんだ文やことばに線を引きながら読むのです。

そのとき、線の種類をいくつか変えたとわかりやすいですね。たとえば次のように。

○意味のよくわからない言葉

○ようすや気持ち伝わってくる言葉や文

(特に)

○「ど」うしてそんなことをするのだろう」「ときもんに思うところ

(赤線)

○ていねいに、くわしく考えてみたい言葉

◎はじめからたくさん引こうと思わないことです。くりかえし読むうちにだんだん、うかんでくることも、疑問も、ふくらんでくるのですから。

一回読んで、ひとつかふたつ引ければよい、というぐらいの気持ちでやりましょう。

③「はじめの感想」を書いてみよう

①②の仕事をするために、何度も読んでいますね。

ここで、自分が読みながら感じたこと、疑問などを一度ノートに書いてみましょう。

○登場人物についての感想

○これから、もつとくわしく考えてみたいこと。

④視写しながら読んでみよう

ゆつくりていねいに、一文ずつ書き写していきましょう。音読していたときには、気がつかなかった小さな言葉にも大事な意味があることを発見できると思います。

⑤ 書き込み

①どんな言葉に目をつけたらよいのか

・その言葉を読むと、

けしきやようすがうかんでくる。

登場人物の姿・顔の表情がうかんでくる。

そういう言葉を見つけてみましょう。

★長い文になるときは、その中で特に強く感じる言葉を書き込んでみましょう。

でかこんでおくとい

②どう書けばいいのか。

その言葉から自分が思いうかべたようす・登場人物の表情・気持ちをそのまま書けばよいのです。

◎よりよく思いうかべるために

その言葉を考えるとき、必ず、そのまわりの文章とつなげて考えるようにしましょう。

そうすると、「なぜ、そんなふうになるのか」ということがはっきりしてきます。

関係のある言葉とつなげておくといいですね。

(2) 書き込み読みの指導

個人学習で最も中心的な活動になるのが、この書き込み（ひとり読み）の作業である。だが、子どもたちの側からすると、一番難しいのがこの書き込みなのである。「どんな言葉に目をつけたらよいのかわからない」「どんなことを書いていけばよいのかわからない」という子どもたちが必ずクラスに何割かはいるものである。またこの学習に慣れていない学級なら、大半の子どもがそうであるかもしれない。

なんとか、どの子ども自力で進められるような書き込みの方法はないかというこれまで試みてきた。

5年のとき「大造じいさんとがん」の手引きでは、次のようにした。

《書き込みのための手引き》

大造じいさんの残雪に対する気持ちがどう変わっていったのかということを中心に書き込みしましょう。

- ①まず、大造じいさんのしたこと、言ったこと、気持ちを書いた文に線を引きましょう。
- ②その中で、特にじいさんの気持ちが強く感じられることばをはこで囲みましょう。
- ③はこの言葉を中心に、そこでのじいさんの心の中を想像して書いてみましょう。
 - ・その前後を読むとなぜじいさんがそんな気持ちになったのかわかる言葉や文があります。そういう言葉を線で結んで考えましょう。
- ④情景を描いた文の中にもじいさんの気持ちが出ています。そういうところを見つけて書き込みしましょう。

主人公によりそい、主人公の行動をたどっていくことで物語の主題にせまれる、それが、物語の読み取りの基本的な形である。そういう読み方を学ばせるために、こういう助言を入れたのである。

でも実際には、これだけではなかなか動けるものではなかった。だから、一斉学習の形で書き込みの勉強を何度もしながら、進めたのであった。

①話し合い学習の後に書き込み読みを導入（「春の歌」での取り組み） Ⅱ

一人読みの手法として「書き込み読み」がある。しかし、どんな言葉に着目し、どんなことを書き込んでいけば良いのか、初めての子には戸惑うことが多い。そこで、まず一斉学習でこの詩の鑑賞を行い、一人ひとりがイメージを持った上で書き込み読みをさせてみたらどうかと考えた。

春の歌		草野心平	
ほっ まぶしいな。	ケルルン	クツク	
ほっ うれしいな。	ほっ	いぬのふぐりがさいている。	
みずはつるつる	ほっ	おおきなくもがうごいてくる	
かぜはそよそよ	ケルルン	クツク	
ケルルン	クツク	ケルルン	クツク
ああいいにおいだ。	ケルルン	クツク	

一斉学習での話し合いの一部を紹介する。（「春の歌」第二時 授業記録）

T じゃ出してください。

安裕 「ほっ まぶしいな。」のところがびっくりしている。

めぐみ はじめの「ほっ」はびっくりしてて、二番目からの「ほっ」はうれしい。

勇太 やっちゃんとおんなじところだな、「ほっ、まぶしいな。」はうれしがってるみたい。

T びっくりはびっくりでも、うれしいびっくりか、なるほど。

恵理子 「ほっうれしいな」のところは、ずっと土の中において、みんなと会えなかったから、やっ
とみんなに会えたなあと思ってる。

祐介 またみんなと遊べるし、しゃべれる。

太志 「かぜはそよそよ」でうれしそう。

北斗 「ほっ うれしいな」のところはな、久しぶりに地上に出られたで。
亜未 ケルルンクックはうれしがってる。

宏 最後のケルルンクックのところな、二つともいぬのふぐりや大きな雲によびかけてるような気がする。

T 宏君は、(板書で絵に書きながら)ケルルンクックて呼びかけてるような気がする。……ほう。義昌 うれしそうに歌ってる。いい気もちで。かぜはそそよやで。

T ここ、うれしがって歌ってるみたいな気がするっていうのか。ほど、昨日賢児君が「先生、『春の歌』て、これ歌か？」て聞いてたけど、このあたりは、歌になってるのかもしれないね。

麻衣子 「ああいいにおいだ」は、おひさまのにおいと花のにおい。

T 花のにおいだけでなしに、おひさま……

麻衣子 それとな、蛙、2匹いるかもしれない。「ほつまぶしいな」は一匹めが顔を出して、外に出ている蛙が「ほっうれしいな」言うて、一匹は川の方を見て「水はつるつる」とか言って、もう一匹の蛙は風にあたって「かぜはそそよ」とか言って、一匹が「ほっ いぬのふぐりがさいている」て言って、もう一匹が「ほっ 大きな雲が動いてくる」て言って、最後は2匹でケルルンクックてっ言っている。

T そんなこと読んでた人ある？先生、ずっと一匹やと思ってたけど、二人で話しているって、そんなふうにも読めるね。……略……

2時間の話し合いで一人ひとりかなり具体的なイメージが作れたように思った。そこで、それを書き込み読みの導入につなげてみようと思った。

ノートに詩を視写させ、その行間に言葉から見えてくる景色や蛙の気分を書き込ませていったのだが、子どもたちは、予想以上に集中して取り組んでくれた。書けた子は、他の子と読み合っところんと指示したが、それもノートを交換しては、楽しげにやっていた。

②一人読みを出し合い、書き込みの材料をどの子にも持たせる。

(6年「川とノリオ」)

まず、一人読みをさせてみる。そして、それぞれが目をつけたところの読みを出し合わせて、書き込みできるところを広げて、また書かせる。そんな指導も繰り返しやってきた。「川とノリオ」の授業からその一場面を挙げる。

教材文

町外れに行く、いなかびたひと筋の流れだけけど、その川はずかしい音をたてて、さらさらと休まず流れている。日の光のチロチロゆれる川底に、茶わんのかげらなどしずめたまま。
春にも夏にも、冬の日にも、ノリオはこの川の声聞いた。
母ちゃんの生まれるもつと前、いや、じいちゃんの生まれるもつと前から、川はいつときの絶え間もなく、この音をひびかせてきたのだろう。山の中で聞くせせらぎのような、なつかしい、むかしながらの川の声――

各自で読む

T 最初、ここを一人勉強で読んだときに、ここ何か、ええ感じやなとか、線引つ張ったところありますか。

C ある

T そうか。じゃ、それをみんなで出しあいながら考えていきましょう。
力 「いなかびたひと筋の流れだけど、その川はすずしい音をたてて、さらさらと休まずながれて
いる」 そこ、なんかわからんけど、感じる。

勇也 先生、そこ、じょうずに読んでみて。

T 読む。

善崇 「チロチロ」でふつうとちよつと違う。

勇也 力君のゆうたところだな、なんか、ゆったりしている。

美希 「山の中で聞かせらぎのようなつかしいせせらぎ」で、ゆったりしている感じ。

T はい、そういうふうには、ここ、ゆったりした感じがするとか、そういうふうに出して下さい。

美豊子 美希ちゃんと同じで、「山の中で……」でなんか、きれいな景色が浮かんでくる。

T いいねえ、きれいな感じがする。

幸則 「いなかびた」のところ、戦争とは思わせへんようなきれいな感じ。

T まるで戦争とは思えない、きれいで、のどかな。いいですね。

真人 「いっときも」で、水もかれんと。

裕幸 「日の光がチロチロゆれる川底に……」で、何か、川がすきとおって、茶わんが見えている。

T うん、すきとおってきれいな川がうかぶ。

貞幸 「春にも夏にも……聞いた」ずっと前から、ノリオが生まれたときから流れている。

T ああ、いいこと言ったね。智美なんて言ったの。

智美 うんとな、生まれてからもずっと聞いている

T ノリオが生まれた時からずっと川と一緒に流れていることね。

智士 いや、ノリオが生まれるずっとずっと前から流れているん。

T そう、川はずつとむかしから流れ続けている。そうすると、その川が何か表しているという感
じがしませんか。時間というか、歴史というか、

勇也 貞幸さんと同じところだな、「春にも夏にも」でな、なんか、仲良くしてる

T うん、いつも仲良し。

そうやって聞いていると、いっぱい出てくるでしょ。はい、志穂どう？

志穂 まあちゃんといっしょで、「この音をひびかせてきたのだろう」のところで、ノリオの小さい
時も響かせていた。

明子 私も「春にも夏にも……」のところで、今までずっとゆったりときれいな感じで流れてきた
と思う。

T はい、今聞いていると、これだけの言葉から様々なことが想像できるでしょ。今の話し合いから
もらつてもいいし、今聞きながら自分が思ったことでもいいですから、そこ書いて下さい。学習
ノートに。

C (一人読みを始める)

③書き込みのヒント入り学習プリント

初期の段階では、書き込みのヒント入りプリントを作って書き込み読みをさせる、ということもよくやった。その例として「三年とうげ」の一人勉強プリント例を挙げる。

「三年とうげ」(3年)

ある秋の日のことでした。一人のおじいさんが、となり村へ、反物を売りに行きました。

①
そして、帰り道、三年とうげにさしかかりました。白いすすきの光るころでした。

②
おじいさんは、こしを下ろしてひと息入れながら、美しいながめにうっとりしていました。

③
しばらくして
「こうしちやおれぬ。日がくれる。」

おじいさんは、あわてて立ち上がると、

④
「三年とうげで 転ぶでないぞ。」

三年とうげで 転んだならば、
三年きりしか 生きられぬ。」

と、足を急がせました。

お日さまが西にかたむき、夕やけ空がだんだんくらくりました。

ところがたいへん。あんなに気をつけて歩いていたのに、おじいさんは、石につまずいて転

んでしまいました。おじいさんは、真つ青にな

り、がたがたふるえました。

⑥
家にすつとんでいき、おばあさんにしがみつ

き、おいおいなきました。
「ああ、どうしよう、どうしよう。わしのじゅみょうは、あと三年じゃ。三年しか生きられぬのじゃあ。」

その日から、おじいさんは、ごはんも食べず

⑦

①「さしかかる」とは、
ちようどそこを通るといいうみです。

おじいさんは、とうげのどのあたりまで来たのでしょうか。

「うっとり」と「けしきをながめているおじいさんの心の中をそうぞうしてみましよう。

③どうしておじいさんはそんなにあわてたのかな

④おじいさんの歩くすがたを思いうかべてみよう（どんな顔で、どこを見て……）

⑤この時のおじいさんの心の中をそうぞうして言葉にしてみよう。

⑥「すつとんでいき」「おばあさんにしがみつき」という言葉から、おじいさんのどんな気持ちを読み取れますか。

⑦おじいさんが病気になったのは、「三年とうげ」のたたりのせいだったのでしょうか。

に、ふとんにもぐりこみ、とうとう病気になっ
てしまいました。お医者をおよぶやら、薬を飲ま
せるやら、おばあさんはつきつきりでかん病し
ました。

—略—

⑧かぜをひいたぐらいでは、つきつきりか
ん病しませんね。どうして、そんなにまし
たのでしょうか。この時のおばあさんの気持
ちを考えてごらん。

④子どもの疑問を手引きに織り込む(「一つの花」での取り組み)

「一つの花」の学習でも一人勉強の手引きは作った。しかし、より子どもたちの読みに即したものに
するために、まず子どもたちに「ここがよくわからない、詳しく考えてみたい。」というところを
出させ、それを手引きの中に織り込んでいくという形にしてみた。

子どもたちが第一次の学習で出てきた問題は、例えば次のようなものである。

小さくばんざいをしていたり、歌を歌っていたりしていました。

- ・ どうしてばんざいをしたり歌を歌っているんだろう。賢児・勇太
- ・ なんで小さくするのか。もっと大きくすればいいのに。麻由・真由佳

「ゆみちゃんいいわねえ。」

- ・ どうしていいのか。お父さんがしぬかもしれないのに。宏

わすれられたようにさいていたコスモスの花

- ・ どんなふうにさいているのだろう。宏
- ・ お父さんは、どうしてコスモスなんかあげようと思ったんだろうか。麻衣子

お父さんはそれを見てにっこり

- ・ ゆみこの喜びようを見て、どうしてわらったんだろう。麻衣子

何もいわずに汽車にのって行ってしまいました。

- ・ どうしてゆみ子のお父さんは何も言わずに汽車に乗って行ってしまったんだろう。勇太
- ・ じゃあ行ってくるよ、とでも言って行けばいいのに。めぐみ

ゆみ子のにぎっているコスモスの花を見つめながら

- ・ どうして見つめていくのか。 亜未
- ・ 花なんか見てないで、ゆみ子やお母さんを見てたらしいのに。 寿子

こうした疑問を一人読みの手掛かりにして書き込み読みをさせたのだった。

⑤子どもたちの書き込みへの助言

子どもたちが書き込みの学習をしているときに、私は子どもたちの間を回りながらいろんな口入れ
をした。

回りながら、つまづいている子の相談相手になってやることはもちろん、子どもたちの書き込みで、

全体に広めたいこと、みんなに確認して分かせてしまう方が良いことなどを見つけるためにも教師はこまめに神経をはりめぐらして動く必要がある。ある意味では、一斉学習以上に大変な学習であるともいえる。

「お母さんの木」の授業での記録があるので参考までにあげておく

教材文

ところが、ある日、その木はなんの変わりもなかったに、役場の人があらたまつてやってきて、一郎が中国大陸で、メイヨノセンシフトゲラレタという知らせをくれた。

お母さんは、むねもつぶれんばかり、たいそうおどろきなさったけれど、じつところえて、手をついて、

「ご苦労さまでござんした。あの子が、お国のお役にたてて、うれしゅう思います。」
と言いなさった。

その子の考えを具体的なところまで引き出す

岳君のノートを見ると、「じつところえて」のところに「泣いたらいいのに、なんでこらえたのかわからない」と書いてあった。

問題としてとらえているのは大事なことだけど、こういうふうに「わからない」という形で書き込んでしまうと、問題に正面からぶつかからないで、逃げてしまうことになりかねない。

そこで、岳君に

「そこ、「わからない」と書かないで、なんとか自分の考え作ってみて。想像でもいいから」と要求した。岳君はしばらく考えていたが、

「恥ずかしかったんちがうかな。」

と言った。私は、

「恥ずかしかつた、てどういうことかな。みんなに笑われるのがかなんかつたということ？」

と問い返してみた。すると、岳君は

「笑われるんがかなんかつたのとちがって、……なんか、泣いたら死んだ一郎に申し訳ないみたいなの……」

とすごいことを言い出してきた。岳君は、「メイヨノセンシ」の重みを感じ取っているのかどうかは、まだわからないが、そこつなげて読み深めていける内容を出してきているのだ。

「お国のため死んだ一郎の名誉に傷がつくということかな。それ、とつてもいい考えだから書いといて。」

と言ってそこを離れた。

問題をみんなに広げる

脇坂さんのノートを見た。さつき岳君が問題にしていたところは、空白になっている。でも、ここは、みんなが自分の読みをもってほしいところなので、聞いてみた。

「ここむねもつぶれるほどおどろいたのに、じつとがまんしているね。なんでがまんしたんやと思う？」

すると脇坂さんは、「わからん。」とあつさりいう。全く見当がつかないという顔だった。そこで、「岳君もそこ考えててね、「恥ずかしかったで」といつてるけど、どう？」と岳君の読みを例に出して問い返してみた。それに対して脇坂さんは、「恥ずかしかったのとは違う。」ときっぱり言った。でも言葉にはならないらしかった。「そこ、となりの人と相談してもいいから、自分の考え見つけといて。」と言うと、さっそく隣の室田さんと相談しはじめていた。こういふふうに、友達の読みを紹介してやって、考えやすくしてやったり、みんなの問題にしている部分などは、「ちよつとみんな聞いて。今岳君や脇坂さんが「じつところえて」のところ考えているんな考えが出るんや。みんなもそこ考えてみて」といふふうに学級全体の子どもに広げてよいかもしれない。

前後と関係づけて読む力を育てる

功子さんのノートを見ると、「むねもつぶれんばかりたいそうおどろきなさった」のところに「しんじられないほどのおどろき。うそみたい」と書いてあった。これは、正しい読み取りではあるが、できれば、なぜ「しんじられないほどのおどろき」になるのかというところまであきらかにさせたい。その前の叙述に「ところが、ある日、その木はなんの変わりもなかったに」というところがある。お母さんは戦死の予想などまったくしていなかったのである。だから、「むねもつぶれんばかり」になるのだ。そういう文のつながりをできるだけ意識して読ませたいと思う。功子さんには、「とってもいい読みやね。その前に「その木はなんのかわりもなかったに」て書いてるから、安心してたのに突然戦死の知らせが来たからしんじられないほどびびくりしたんやね。そういう言葉を線で結んでおくといい」といって線で結んでやった。こうした「つながりのある文や言葉を線で結ぶ。」というのも一人読みの作業でぜひやらせたいことである。ある時間、取り立てて指導してやるとよい。

4. 個人学習から一斉学習学習へ

個人学習で一人ひとりの読みが創られる。それを一斉学習で更に深め、広げていくことはなかなか難しい。書き込みの発表はどこか抜け殻的になるし、その読みも並列的に並ぶだけだったりする。うまくいった事例は少ないが、自分なりに試みてきたいくつかの実践事例を挙げてみる。

(1) 個人学習での疑問を出し合うことから出発する授業

「ちびへび」 工藤直子 八日市西小5年

授業で発言することをためらう子が多かった六年生での授業である。「分からないことを出し合う」というのは子どもたちにとって気が楽だったようで、沈黙が多い国語の授業の中で、この一時間は子どもたちがのびのびと話し合い、考えあってくれた。

ちびへび 工藤 直子

暖ったかいのだもの

散歩はしたいよ

ちびへびは

おうちに鍵をかけて

ふらふらでかけた

こんちわというと

小鳥はピヤツと飛びあがり

いたちはナンデエとすごんだ

あら おびに短したすきに長しねと

仲間は忍び笑いをした

ちびへびは急いで家にもどり

おうちの中から鍵をかけ

燃え残りの蚊取り線香のように

まるくなつて、ねむった

でも……

暖ったかいのだもの

散歩はしたいよ

ちびへびは

もういちど でかけた

誰もいないところまで

——こんちわ いわずに

——ふらふら しないで

(音読・あらすじを言わせた後)

T じゃ、これから勉強していくんだけど、昨日一時間一人勉強したやん。先生、さつきちらちらと見たら、みんな、「わからん」ってことがいっぱい書いたったん。何でやろ、何でやろって。わからんことがあった人

C 挙手

T じゃ、疑問があった人立って。

今すわっている人は、答えてもらうから。わからんことがいっぱいある人ほどよい勉強ができる。

じゃあ、育美ちゃん言ってくれる？

育美 ちびへびは急いで家に戻つておうちの中から鍵をかけたのがわからん

T 何で急いで帰ったかがわからない。(Cわかるという声)そして、何でうちの中から鍵をかけよったのかわからない。はい、よくにた考えだつていう人

公美 私も鍵をかけたところ

T いっしょだつて言う人。……その人たちは座つて。まだ、他にある人

C はい！

潤 何でこんちわいわんと

T 今、潤が言ったの分かった？

城野 なんて、こんちわとかふらふらとかしないでいったのか

T 二回目の散歩はこんちわつて言つてないね。プラプラもしてないね。何でやろ

C それ、分かったわ

T うん、分かったつていう人はまたあとで教えてもらおう。

はい、潤と同じところの人手を上げて。はい、その人たちは座つて。まだある人

志保 小鳥はピヤツと飛び上がりというところで、何でちびへびがきたとき、飛んで行ったのか

T はあ、ここもわからん。はい、志保ちゃんと同じ疑問がある人。はい、まだある人

麻衣子 何で誰もいんどころまで行ったのか

T はい、まだある人

城野 仲間は忍び笑いをした、つていうのがなぜ、笑つたのか。

T これもわからん。ようけわからんところあるね。

慎介 なぜ、燃え残りの蚊取り線香みたいに眠つたのか

T ここもわからん。もう全部やな。はい、慎介君と同じ人。

将範 まだある。ちびへびは大人か子どもか

C わからん

T 大人？子ども？うん……

一樹 笑われたのに何でまた行くのか

T 一樹君のわかった？

いっぺんめ笑われたのに何でまた行くのか

T もう、こんでみんなの疑問全部出た？

勉強っていうのは、こうやってわからんところが分かっていったら勉強だからね。

どこから行くといいかな。

C 口々にいう

T 取りあえずは、お話の筋でみんなの疑問を解決して行って、残ったらまたいきましよう。

そして、このあと、「ぶらぶらでかけた」ちびへびの気分を話し合ったあと、二連の読みに入った。

T 問題は、志保ちゃんが言ったの。「何で飛び上がったの？」というのは、こわくて逃げたんだ。ああ、そうだっていう人。

C わからん

T そうじゃないんじゃないっていう人？ あっ、惟ちゃん違うって

惟 ちびへびは、大人のへびになっても小さいままで、ほんで、ちびへびは避けられてるの

T ……ほう、何ていわったか分かった？こわくって逃げたんちがうって

喜枝 いじめてるん（つぶやき）

浩邦 このちびへびは仲間はずれにされているからにげよった？

駿祐 えっとな、忍び笑いをしよったから、隠れて笑ったいうことやから隠れて、「何でこんなちっちゃいやつが

きとるねん」て笑ってしまよるん。

T ああ、忍び笑いはな。この「びやつと飛び上がり」は？逃げとるのと違うのか。

駿祐 ちがう

滋司 ちびへびは嫌われている

寛 ちびへびと小鳥といたちは仲が悪い

T ほうすると、今、二つの考えが出たるんよな。こわくって逃げていったんだと読んでる人。あと何人かは、ち

びへびが嫌い？ほんで

C いじめてる

孝介 遊ぼうとか言ってきたても、「お前なんかいやよ」ってふつと避ける。

T ほういうのあるね。遊ぼうって言ったときに、へーんて避けられる感じね。

C どっかいけって

T どっちの感じがしますか？これ読んでて。

手を上げてごらん。こわくて逃げたんだという人……

いや、お前みたいいやよーって避けたんだってという人……

C わけもあるで！

T わけも言える？

滋司 こわないわけは、うんと、子どもやったらほんなにこわない。

孝介 もし、大人のへびやったら、いじめたら反対に食われてしまうから。

T こわい大人のへびやったらほんとに逃げるけど、ちびへび、ちっちゃいへびだから。

あと、「私たちは……」

孝介 何でカタカナなん？

駿祐 何でこんなちびがこんなところにきとるねん

T 駿祐が言いたいことわかる人 「ナンデエ」の気持ち言うとるんや。

喜枝 遊んでる

T 遊んでる？えーっおもしろいこと言うやん。

喜枝 だからな、ちびやからな、怖い顔しておどかさうとしとるんや

小さいへびやからいたちが怖い顔して一回おどかしたろうと思つて遊んどるん

—略—

(2) お互いの読みを出し合う中でイメージを深めるー授業 「川とノリオ」 豊郷小6年

場面の状況を共有できていれば、それぞれの読みを出し合い、聴き合うことで自然と読みが深まったり広がったりしていく。そういう授業の形もあつていいと思つている。いくらかさんなことができたかなと思ふ記録である。

教材文

冬

こおりつくようななまり色の川。川つぶちを走る空っ風が、ひびにしみる。

電線はヒューンと泣いているが、ノリオの家のあひるっ子は元気だぞ。

ノリオの家の白い二羽のあひるは、川の中で泳ぎの競争だ。

なまり色の中の生きた二点。

じいちゃんは工場へ通つている。弁当を持って、毎日、空っ風の中を。

各自で朗読

T これだけにしぼつて勉強します。今まで川とノリオを勉強してきた時に、景色からノリオたちの心だとか気分を読むことができる。それから、色からやはりそういうことが読める。それから、川があらわしているもの。それから、音・はだざわり、そういうものからノリオたちの心を読む。そういう勉強をしました。そういう目でここを読むといっぱいそういうものが見つかると思ひます。これから10分間、自由に書き込みをしていってください。たとえば、例をあげれば、「冬」で題から何かを感じる。春でもなくって夏でもなくって冬。

力 寒い

T そう、その寒さは何を表しているのだろう。

和幸 ノリオの心の中

T そういうふうだね。

「なまり色の川」。きらきら輝く川ではなく、しかもこおりついたような川。それは何を表しているか。そういうふうに残んでいくといい。

—個人学習—

(何人かが寄つてやつている者もいる。)

T じゃ、先生が読みますから出して下さい。

「冬」。はい、この題から何か感じた人

真ひと 春ではなくて、悲しい季節。

力 冬やでな、何か悲しそう。

裕幸 冬やと、何かぱっとしいひん。

力 誰かの気持ちを表してるみたい。

T 誰の？

力 ノリオとかじいちゃんの。

T ノリオやじいちゃんの気持ちをうつしている。
どうですか。

真人 こわい

T じゃ、つぎ「こおりつくようななまり色の川」

貞幸 川はな、もうノリオと遊べんように、死んだみたい

亜紀子 あったかい母ちゃんが死んでな、氷りつくようなノリオの心のような

浩生 寒くてこわい。

智士 さびしい

真人 川といっしょにこおりつく。

T そういうこおりつくような気分がノリオの心だ。

和幸 なんかも、重々しい。なまり色やろ。ほんで、ノリオやじいちゃんの心も重い。

T なまり色。色だけじゃなくて重さもある。ずしんと重い。

勇也 なんかも、よけいつめたそう。ふふうではつめたいんやけどな、よけいつめたそう。

T うん。和美さんどう。

和美 前の方は山の中で聞くせせらぎのような川だったのに、冬になって、……

力 なんかさびしそう。

T 前の山の中のせせらぎのような川と比べて、春のきらきらがやくような川と比べて、どう、川は何を表している？

力 やっぱりノリオの心。

T 心とか姿。母ちゃんに見守られて金色に輝いていた時代から冬の時代へ移ってきている。そういうふうにも読めるでしょ。

「川つぶちを走る空つ風がひびにしみる。」

大輔 そこでな、前にノリオの父ちゃんとかが死んだから ノリオの悲しみがある。

真人 ノリオの体の中は、風がひゅーひゅー風が通っていてつめたい。

T 空つ風というのかわいたつめたい風やね。それはけしきだけでも、なにか、さびしい、ガラーンとしたノリオの心をふいていく風のように感じる。

力 ひびにしみる。て、その風がノリオの心につきささる、ていうか。

T うん、そうね。

「電線はヒューンと泣いているが、ノリオの家のあひるっ子は元気だぞ。」

晃典 ノリオの家のあひるっ子は、ノリオとおじいさんで、元気だぞ、ていうのは自分らも元気だぞ、ていうこと。

T ああ、いいね。

智美 あひるっ子は、ノリオとおじいさんといっしょで、お父さんとかが死んで悲しいと思ってるけど、ノリオのあひるは元気に遊んでいる。

哲郎 晃典君といっしょで、ノリオの家のあひるっ子は元気だぞ、て、前のことはわすれて、元気だしてる

T いいこといつてるね。前の悲しいことはふりきって、元気にがんばってる。

裕幸 「こおりつくようななまり色の川」とかな、今まで暗かったやん。それが、ノリオとおじいさんの心を表している、ノリオの家ではな、あひるだけが元気なん。

T ノリオは暗いの？

力 いや、ノリオは明るいと思うぞ。

T どう、あひるっ子は何を表していると思う？

C ノリオとじいちゃん。

C 「泣いているが」て書いてるのは、それをがまんして、元気だぞ、て、始めは悲しかったけど、もうそんなことは忘れて今はもう元気にくらしているぞて、いうこと。

勇也 ぼくといつしょ。

T おもしろいね。いいんじゃないですか。

—略—

(3) 読みの違いを捉えて深めていく授業

(ごんぎつね 愛知川東小4年)

一人ひとりの読み取ったものを出し合ってみると、読みの微妙な違いが出てくる。その違いを捉えて読みを深めていく、そんな授業例である。

教材文

兵十が、赤いどの所で表をといでいました。兵十は、今までおつかあと二人きりで、まずしくらしをしていたもので、おつかあが死んでしまっっては、もうひとりぼっちでした。

「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」

「こちらの物置の後ろから見ていたごんは、そう思いました。」

この時間は、ひとりぼっちになった兵十をごんがどんな思いで見つめているかをさぐることがねらいである。ひとりぼっちになった兵十への同情、共感、そのうらには、ごん自身の孤独さがある。同じひとりぼっちどうしの共感は、それまでの単なるいたずら相手という意識から、互いにわかりあえる仲間のような意識へと転換していく。そこを読ませたいと思った。

T 3章の初めのところを見てください。「兵十が赤いどの所で表をといでいました。」で、その姿を「おれと同じひとりぼっちの兵十か。」で見ている。このごんの気持ちをみんなできていねいに考えてみたいと思います。まず、初めにゆっくり読んでもらいます。西津君

西津 朗読

T もういちど、自分自分で読んで、ここでどんな兵十がうかぶか。それをどんな気持ちで見ているか、考えながらゆっくり読んでください。

C (読む)

T はい、じゃ、最初にね、「兵十が……」ここで、みんなは、どんな兵十がうかんできますか。……赤いさつまいもみみたいな元気のいい兵十がうかんでくるかな……。

龍法 さびしそう。

祐子 さびしいくらしをしていたときより、今のほうがもっとさみしそうで、兵十はためいきが出そう。

T ほう。前よりもっとさみしくて、ためいきがでる。

哲也 一人になったからいそがしくなる。

T 仕事がいそがしくなる。今までおつかあがしていたことまでしんならん。

朝子 まずしかった時よりもっとさびしかった。

T (ごまで(死ぬ)よりも、もっとさびしくなった。

宣彦 兵十のおつかあがしんで、おつかあの方までしんならんからいそがしい。

T で、このとき、それを見ているごんには、その姿がどんなに見えたか、もう少し、ごんの目で見てみましょうか。ごんは、この姿を見ながら、「おれと同じひとりぼっちの兵十か。」と言ってますね。この言葉の中に、ごんの、どんな心、気持ちを読めますか。

宣彦 ごんもひとりだし、兵十のおつかあがしんでから、同じひとりぼっち。

T 兵十とおんなじだなんて。

勝仁 あんな、ごんはひとりぼっちだからかわいそうやなって。

T かわいそうだなって見ている。

哲也 なんか、しょんぼりしてみてる。

T だれが？

哲也 ごんが。

直也 はい、哲ちゃんと似てる！

T これを見ているごんもしょんぼり。……みんなはどうですか？そんな気がする？ どうしてかな。

直也 あんな、ごんは、自分の親がいなかったことに気が付いてな、悲しみがこみあげてきた。

T この姿を見ていたら、ごんも、悲しみがこみあげてきた。

直也 親がないでな。

T 今、哲也や直也が言うてること、もうちよつと言える、ていう人ない？

優子 ごんは、親が死んでひとりぼっちになったさみしさを知っているから、ごんまで、さみしい。

智将 ごんは、いたずらをして、そのさびしさをまぎらしていたけど、今、兵十を見ると、さびしそうにしているから、そのさびしさがこみあげてくる。

T わかる。……ごんもひとりぼっちやね。ずーっと一人ぼっちできてるんやけども、そのさびしさは、いたずらをしてまぎらわしたけど

も、ごんごの兵十のひとりぼっちでさみしそうなを見た時に、今まで、まぎらしていた自分の一人ぼっちのさみしさも思い出す。

T はい、ほかに、まだ、こんなことも思った、というのを出して、

美由紀 兵十といっしょで、ためいきまじりで、おれと同じひとりぼっちの兵十か、て思っている。

T 兵十と同じに。どうしてためいきがでるの？

美由紀 自分の悲しみも思い出す

T 自分の悲しみもごんで、いっしょに。おれもさびしい。そうやなめて、自分と同じように思えてくる。

邦臣 おれも、ひとりぼっちでがんばっているから、兵十もがんばれよとはげましていて、ごんは、ひとりぼっちの気持ちがわかる。

T ほう、また違うこといきましたね。ひとりぼっちのきもちがわかるから、なんだって？がんばれよって。今の邦臣君みたいに思った人ある？ (なし)

邦臣くんは、「かわいそうだな。」て気持ちを受け止めてるだけじゃなくて、なんか、がんばれよって、兵十にはげましているような。

朝子 おれと同じひとりぼっちの兵十か、の前に「死んでしまっっては」て書いてあるから、なんか、ごんには、あまりわからないから、そっちの方がよけいかわいそうだなって思える。

T ……もういっぺん、言ってくれる。

朝子 (くりかえし) 初めからひとりぼっちだったごんには、そのさびしさがわからないから、自分よりもかわいそうだなあ。

治武 ごんは、初めからひとりぼっちやけど、兵十は、今までおつかあと二人つきりで暮らしていて、おつかあんの死んだ悲しさが、ごんにはよくわからない。

T ごんより、もっとかわいそうだなって言ってるのね。

由美子 ごんは、最初からひとりぼっちだったけど、兵十は、お母さんとの思いでがいっぱいあるから、よけいにかわいそう。

有香 ごんははじめから一人ぼっちだったけど、兵十は今、おつかあが死んだばかりだから、よけいにかわいそう。

T わかるね。ここまでは、毎日、さびしかったけれど、おつかあと二人で、話をして、「今日、こんなおもしろいことあったんよ。」とか

言ってたのに、そのたった一人おつかあがなくなった悲しきは、もうずっと一人ぼっちでやってきて、一

人ぼつちになれているこんから見たら、自分よりもつとかわいそうだなて見えてくる。

朝子、そういうことですか？（朝子うなずく）

まだ、もつとこんなこと考えた、ていう人ありますか？

なつ希 ごんは、なんか、兵十といっしよで、ひとりぼつちの友達気分

T ……また違う意見が出てきた。今のわかった？もういっぺん言ってくれる？

なつ希（くりかえす）

T なんか、この時、兵十が友達のように見えてきた。

そんなこと、思った人ある？（ある！）はい、大裕

大裕 けんかしてた相手やで。

C うん？

T ほど、大裕は、ずっと前から友達やっと思ってる？なつ希はどうなの？今、この時に友達と思えてきた、どっち？

なつ希……

T 智将は、どういう意見なの。

智将 前やったら兵十は二人ぐらしだって、ごんとは、家族の人数がちがうけど、もうひとりぼつちになつて、ごんとひとりぼつちどつちの友達。

（4）みんなで考えたい課題を提示し、一人読み・グループ読みから一斉学習へつなげた授業

（「きつねの窓」 豊郷小6年）

無理に個人学習から一斉学習へつなげようとしなくてもよい。一斉学習は一斉学習としてやればよいとも考えている。子どもたちが個人学習で一定の内容を読み取っているという前提にたち、こちらから追求課題を提示して考え合った授業の例である。

教材文

そして、歩きながら、また両手で窓を作りました。
すると、今度は、窓の中に雨が降っています。細かいきりさが音もなく。そして、そのおくに、ぼんやりと、なつかしい庭が見えてきました。庭に面して、古いえん側があります。その下に、子どもの長ぐつがほうりだされて、雨にぬれています。

「あれは、ぼくのだ。」ぼくは、とつさにそう思いました。すると、胸がどきどきしてきました。ぼくの母が、今にも長ぐつを片づけに出てくるやないかと思っただけです。かつぼうを着てい手ぬぐいをかぶって。

「まあ、だめじゃないの。出しっぱなしで。」そんな声まで聞こえてきそうです。庭には、母の作っている小さい菜園があつて、青じそがひとかたまり、やっばり雨にぬれています。あああの葉をつみに母はでてこないのでしょうか……

家の中は、すこし明るいのです。電気がついているのです。ラジオの音楽に混じって、二人の子供の笑い声が、ときれどきれに聞こえます。あれはぼくの声、もう一つは死んだ妹の声……

ブツと、大きなためいきをついて、ぼくは両手をおろしました。なんだか、とてもせつなくなりました。子どものころの、ぼくの家は焼けたのです。あの庭は、今はもうないのです。

それにしても、ぼくは全くすてきな指をもちました。この指はいつまでも大切にしたいと思ひながら林の道を歩いていきました

T 場面は、きつねに染めてもらった窓を作ったらこんどは、なつかしい景色が見えてきた、というところですね。そのおしまいに、こう書いてあります。

「フーツと大きなためいきをついて、両手をおろしました。」

ずーっと見ているうちに大きなためいきをついておろしてしまった。それ以上見られなくなったわけですね。

「せつなくなりました」て書いてるね。「せつない」て、どういう意味だった？

勇也 恋しい、とか、悲しいこと。ぼくの手感では

T 字引き引いたらどう書いたった？

晃典 さびしかったり、悲しかったりしてつらいこと。

T どうして、見ているうちにそんな気持ちになったのかということ、今日は考えます。

自分でもう一度自分の考えを書いて下さい。3分間時間をあげるから。

2 (ひとり読み)

前時少しこの場面の個人学習をやっているので書いている子もいるが、改めてやらせる。

3 (四人一組のグループになって、自分の読みを出し合う)

4 (全体での話し合い)

T まず、智美のからいこうか。

智美 お母さんや妹の景色がなんかさびしくなって、お母さんのところへいきたいけど、死んだ世界やさかい、お母さんのところへすいこまれそうになるけど、行けないさかい、悲しみが重なって、

T 智美のいうてることようわかる、いう人ある？ 暢子、つけたしたって。

暢子 今は、もうお母さん、死なはつていやらへんやろ。ほんでな、妹や死んだお母さんのことが思い出されて、

悲しさがかえつてきて、小さい子のように、なきさけびたくなった。

T はい、もうちよつと誰か出して。はい、貞幸

貞幸 うんとな、前までは、お母さんや妹がいてたやん。ほやけど、指で作った窓は、声しかきこえんできびしい。T 貞幸がいつてるのは、お母さんの声だけ。だから、声だけしか映らないから、さびしい。

大輔 指を染める前は、なつかしい景色でも、うつすらやっただけど、今はしっかり見えたから、さびしさや、悲しさが重なって。

T そこ、もうちよつと行って。指そめるまでは、昔の景色は、どつか消えてるわけね。ところが、ここで、すかっと見えたわけね。まるで、今そこにいるかのように昔の景色が見えてきたときに、

大輔 指をそめてから、いつでも見られるから、そういうさびしさが重なった。

真人会えるのは会えるんやけど、しゃべったり、そばに言ったりできひん。

T 身体にふれたり、しゃべったりできない。

和幸 きつねとおなじような気持ちになっただん。

T どういうこと？

和幸 こぎつねも、おやぎつねの姿を見て、悲しい心をもったやろ、その時と同じように、景色を見ても、入っていったりできひんし、

裕幸 加藤くんによく似てる。きつねが母ぎつねにあつたとき、「さみしくなくなりました」といったのをみんなで勉強したときに、腹の中で悲しさをこらえている、て言うたやん。その気持ちが僕にもわかったみたい。

力 前もわかってたけど、こいで、いっそうきつねの持ちがよくわかったと思う。

T ほど、今出ているのは、なつかしい景色に触れたときに、ぼくは、そのけしきの中に入っていきたい、もどりたいんだけど、はいつていけない。見えているのは

C 絵だけ

力 まあ、ビデオテープみたいなものや。

T この世界に入って、言葉をかわしたり、触れたりしたい気持ちばかりがふくらんできて、さわれないと、悲しくなる。そういうことをいつてるんですね。

それから、留美が少しがう読み方をしていたね。

留美 まあは、妹とか、お母さんがいてたのに、今はひとりぼっちだから、悲しくなった。

T わかる？

幸則 まあは、みんないて、楽しかったけど、今は、ひとりぼっちで、こういう窓を作って見ていると、だんん悲しくなる。

T 善崇わかったみたいね。言つて。

前は、お母さんとかと楽しくくらしていたけど、今はだれもない。ひとりぼっち。

T 今のぼくはひとりぼっち

裕幸 先生、ちよつと。「二人の子どもの笑い声」今はひとりぼっちやろ。そやし、さみしいで、笑い声なんかでえへんけど、あのころは、たのしかったなあ、とか思つてる。

T わかる？ 大事なことやで。こうやつて、にぎやかでたのしい世界が映れば映るほど、今の自分が和幸 寂しくなつてくる。

T そうあのころはよかつたなあ。そんなに金持ちではなくて貧乏だつたかもしれないけど、よかつた勇也 はい、「……母は庭に出てこないのしょうか」で、これな、なんか、……実際に出てきたらいいなあと思つてる。

力 ぼくは、声だけで悲しいし、お母さんの姿が見えたら、もう少しお母さんに会いたいという気持ちもやわらぐと思う。

T ああ、今力のいつてることわかる。今ここにお母さんの姿は映つてゐるんですか？ 映つてないね。あと少しで見える、というところでストップなんね。だから、よけいにあいたさがこみあげてくる。

(5) 個人学習からみんなで考えたい課題を生み出し、一斉学習で追求する授業

(1)「んぎつね」愛知川東小4年

子ども自身が自分たちの追求課題を見つけ、読み合い考え合う授業。それは私の最終的な目標となる授業であったが、納得のいく授業は結局できないまま私の学級担任時代は終わった。ただ、こんなふうにすればいいのかなという一つの形として「んぎつね」での実践例を挙げる。

教材文

「おれはあれからずつと考えていたが、どうも、そりや人間じゃない、神様だ。神様が、お前がたった一人になったのをあわれに思わつしやつて、いろんな物をめぐんでくださるんだよ。」

「そうかなあ。」

「そうだとも。だから、毎日、神様にお礼を言うがいいよ。」

「うん。」

ごんは、「へえ、こいつはつまらないな。」と思ひました。「おれがくりやまつたけを持つていつてやるのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃあ、おれは引き合わないなあ。」

6

その明くる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました

話し合い学習に入る前、子どもたちの書き込みは、次のようになっていた。

- 1 「つぐないがまだ残っている」5人
- ・うなぎのつぐないにはもっとやらなくてはいけない。強く感じている。(衣利子)
 - ・いくら神様におれいを言われても、まだ、うなぎのつぐないといわしのつぐないがまだ残っている。(宏)

- 2 「自分だとわかってほしい。」5人
- ・もう一回いって、おくとところを見られたら「ごん」と思うから、また友達になる(宣彦)
 - ・もうちょっとやったらとりもどせるかもしれない(智昭)
 - ・自分のことだとわかってもらえるまでやり続けよう。もう決心したんだと思う(朝子)
 - ・これからは、少しやりかたをかえようと思っている(なつ希)

- 3 「友達だから」5人
- ・もうごんは、兵十と友達と決心したから、もうぜつたいに友達じゃないなんか思っただいから。(和樹)
 - ・ちょっと外された気もしたけど、友達なんだと思うと、また兵十にくりとかをあげたあのやさしさにもどった。
 - ・がっかりしたけど、兵十と友達だから(政義)

- 4 「友達になりたいから」5人
- ・ごんは、友達になりたいと思っっているからぜつたいにあきらめない。(有香)
 - ・ごんは、やっぱり兵十と友達になりたい。(龍法)
 - ・神様なんかと友達にならないで、おれとなつてくれ。(邦臣)
 - ・ぜつたいに兵十と友達になるというごんの気持ちがある。(洋志)

- 5 「わかってくれなくてもいい」3人
- ・兵十の笑顔が見られるだけで満足(祐子)
 - ・いくらわかってくれなくても、友達だから持っていた。
 - ・あげないぞ、と思ったけど、兵十は、ごんと同じ一人ぼっちだから、やっぱりかわいそう(智昭)

こうした何通りかの読みを、対立させたのでは、ごんの心にせまることはできない。それぞれがごんの心の一面の真実を言っているのだ。だから、授業では、それぞれの読みのうらにあるものを引き出し、交流させることで、この場面のごんの心境に迫ってみたいと思った。

【授業記録】

T じゃ、始めます。

今日の問題をもういっぺんはつきりしましょう。

ちよっと先生読んでみます。(場面の範読)

(板書しながら説明)

いままでは、ごんが兵十のところへもって行く。兵十は、ごんが持つていつていることはいらないけども、ごんは、持つていったら兵十が喜んでくれる。それがうれしくて、また持つていく。そんなことが続いていたんですよ。ところが、加助が、「そりゃ、神様だよ」「神様にお礼を言うがいよ。」て言われて、「うん。」と言った。そうすると、この瞬間から、この後、どうなるかというところからは、ごんが持つていつても、持つていつても神様にお礼を言う。もうごんの気持ちなんか受け止めるはずがない。有香が、「なんか、友達から外されてしまったみたい。」て、そういうことを言いましたね。で、引き合わないなって、がっかりしちゃった。でも、その明るる日も、ごんは、やっぱり（Cくりを持つて）くりを持つて、兵十のところへ行く。

そのごんの気持ちってなんだろう。がっかりしたのに、それでも持つていく、そのごんの思いついていうのを、今日はみんな考える。

みんな、書き込みに書いてたね。もういつペン自分のを見て下さい。

それをみんな出してみてね、ここのごんの心をみんなでわかりあってみたいと思います。

はい、ぼくは、きつこうだ、と思うの、一応全部出してみましょう。

宏 いくら神様にお礼を言っても、まだ、うなぎのつぐないと、いわしのときのことが忘れられないから、持つていく。

T はい、西津君が言った、うなぎのつぐないとか、いわしのつぐないがまだ（宏 残ってる）残ってるから。似てる、言う人。同じようなこと

考えた人。

勝仁 似てる

T 西津君だけ？勝仁もそう？（うん）それから、大裕もそう。

はい、じゃ、また別の意見だという人、出して下さい。

洋志 ぜつたいに兵十と友達になる、というごんの気持ちがあるから。

直也 中野っちんに似てる。ごんは、兵十が神様が持つてきてくれると思ってるな、なんか、友達になつたみたいでな、神様と兵十が。けどな、持つていつたら、またな、見られてな、ほこの見られてな、なんか、ごんが持つてきてるんやなって、思うっていうか、ほれで。

宏 先生、ぼくもほれに変える。

C 近い

T 今、直也が言うてるのは、神様と友達になつちやつたね。だけど、持つて行つてたら

直也 なんか、見られる、いうか、見てもらつてな、ごんが持つてきてるんやな、て思つてほしい。

T ああ、ごんが持つてきてるんだとわかつてほしい。ほう。

（板書 「ごんが持つて来ているんだとわかつてほしい。」）

近い、ていう人。

宣彦 もう一回行って、くりとか置くところを見られたら、ごんが持つてきてくれたんだと思つてまた友達になれる。

T もういつペン持つていつたら、「ああ、やつぱりごんかな。」と思つてくれるかもしれない。

衣利子 何回も何回も今までやつてきたけど、ずっとやつていつたら、ごんがもつてきてるということがわかるかもしれない。

なつ希 私もえりちゃんと同じで、ごんは、少しぐらい、兵十はごんがしたと思つてくれるように、これからずつとくりやまつたけを持つて行こうと思つている。

朝子 ごんは、自分のことを兵十は気持ち悪いとかいわなかったから、自分のことだとわかつてもらえらるまでやり続けようと思つたし、「兵十のうちへ出かけました。」だから、もう決心したんだと思つ。T だから、やめようなんて、全然思つてないということやね。その上で、おれだと分かつてもらおうと思つて行つた。そういう意見ですね。

そうすると、「おれだとわかつてもらいたくつていくんだ。」という意見が一つありますね。

それから、西津君は変わった、というけれど、うなぎのつぐないがのこつたるから行くんだ、いう人がありますね。まだ、ちがう、ていうのあるでしょ。

祐子 　「ごんは、ただ、くりやまつたけを持って行って、兵十の喜んだ顔が見れるだけでいい。」

T 　今、言うてやることわかる？もういっぺん言うて。兵十の（祐子 喜んだ顔が見れるだけでいい）喜ぶ顔が見られるだけでよい。ということは、……おれが持ってきているんだ、ていうことは、そんなに思っていない？（祐子 うなずく）ほう、そんな人もある。

祐子さんみたいに思った人、ある？

公美 　兵十の喜ぶ顔がみたいし、ごんは、兵十とずっと友達でいたかった

T 　ほう、……友達でいたい。（板書）

　　まだある？さあ、みんな、この中のどこかに入っていますか？

　　まだ、ぼく、こんなのがあるって言う人。

智昭 　書いてないけど。友達にはなれないけど、心の中で友達になる。

T 　……すごいこと言いますね。何やて？友達にはなれないけども

（C 心の中で）心の中の友達で（智昭 いられる。）いられる。

紗織 　友達にはなれないけど、心の中で。

T 　ちよつと待って。今智昭の言ったことすごいことみたいから、書いてくよ。友達にはなれない

けども、（紗織 心の中）心の中で友達でいたい。で、何？紗織。（紗織 やっぱもういい）

由美子 　兵十が神様と友達でも、ごんは、自分では、兵十と友達だと思ってるから。

T 　自分では！

祐子 　兵十が神様にお礼を言っても、ごんは、いつも兵十の近くにいられるし、「うん」という言葉を聞いて、ごんは、喜んでいてくれるんだなあと思ってる。

T 　近くにいられるだけでいい。（板書）

　　さあ、みんな黒板見てくれる。今いくつかの意見がありますね。

今日の勉強はね、どれが正しくってどれがまちがっているじゃなくてね、きつとみんなはごんのどこかの気持ちと言ってるんだと思うのね

で、今言うてやることの一つひとつをわかり合っていけば、ここのごんの気持ちが見えてくると思うんだけども、

　　はい、これ、①としましょうね。「うなぎのつぐない。」

それから、「ぜつたいに友達になる」というのは、どこに入るのかな。

洋志は、どこに近いのかな。「友達でいたい。」そういう気持ち？

（洋志 うなずく）よし、じゃ、洋志のはここへ入れとこうね。

紗織 　ほのほうがいい。

（ここで、ビデオの電源をうっかり外してしまって、しばらく写っていない）

【この後の展開のあらまし】

③「兵十の笑顔が見られるだけでいい。友達になることはあきらめているけど心の中の友達でいられる」

　　こんなふうに①・②・③に整理して、「さあ、みんなは、どんなふうに思う？」と問いかけた。すると、③みたいな気がするという声があちこちで起こった。

「③のような気がする、いう人手を上げて」というと、クラスのほとんどの子が手を上げた。つぐない、と言っていた子も「わかってほしい」という子も、そっちの方がいいとすんなり変わってしまった。私としては、①も②もつぶすつもりはなく、むしろ、それらの奥にある思いを引き出すことによって、より③の意見も深く受け止められることになると思っていただけに、

ちよつと残念だったが、とりあえず、みんなが③だというので、「③をもっとよく考えてみよう」ということで進める。

もう一度、祐子に問い直す。

「どうして、近くにいられるだけでいいと思うの。わかってもらえなくてもいいの」しかし、祐子はつまつてしまう。

そこで、有香にたずねてみた。有香もきのうの書き込みのあと話していて、祐子とよく似た考えを持っていることをつかんでいたからである。

「ごんは、ずつとひとりぼっちやっつたし、兵十も、おっかあが死んでからひとりぼっちやで、同じひとりぼっちのともだちどうしっていうか……」

と、同じ一人ぼっちだから、と少し新しい考えをだすが、それ以上広がらない。その時、直也が「ちよつとちがうことやけど、わかってもらいたいという気持ちはない」といいだす。

「こつそり中へ入りました」て書いてあるから、わかってもらおうとは思っていない。

それを取り上げて、私は、その部分を読んだ。「もし、わかってもらおうというのなら、

こつそりなんかいかないね。」と直也の言おうとしたことを強調した。そして、見つかったら殺されることは、ごんはわかっていたということも確認した。「そうすると、わかっほしい

という気持ちはなかったのかな。」と問うてみた。子どもたちは、反論はしなかった。でも、すんなり納得したような顔でもなかった。それで、

「みんなは、3というけれど、そこ、もうちよつと自分で言葉にしてみて」

と、しばらく、書き込みの時間をとった。

その後、もう少し話し合った。

T じゃ、この③のあたりのみんなの気持ちをもうちよつとみんなで深めてみたいと思います。

公美 兵十がとつたうなぎをごんがとつてしまつて、それを兵十がまだおこつて、兵十に「またぬすつとぎつねめ。」て言われるけど、ほんとは、盗むつもりじゃなかったことを信じてわかっほしい。邦臣 ごんにとっては、最初の友達だから、その友達がしおれていたら、なんだかごんもかなしくなる。T うん。はい、洋志

洋志 見つかるとうせ殺されるけど、心の中では殺されずに友達でいられる

T うん。わかつてるわけね。ごんは、見つかったら殺されるつてことは、重々承知している。だけど、その上で、心の中では、友達でやつぱりいたいんだ。

明代 ごんは、今ままでなんか一人ぼっちだったから、だから、一人できた友達にやさしくしてあげたかった。

T たつた一人、初めてできた友達。これ、邦臣君がいったことやね。だからその友達にやさしくしてやりたかつたんだ。

哲也 兵十の家に入って、殺されてもいいから、ごんが持つていつている気持をわかっほしい。

T おれがやつてるんだつてわかっほしい気持ちはあるんやね。ないことないんやね。うんとわかっほしい気持ちはいっばいあるんだけども、それはわかってもらおうと思つたら殺されちゃう。

そう いうきびしいところがあるわけね。

優子 ごんは、殺されるのをわかっほしいと思つて入つていつたと思う。でもごんは、兵十の青いしおれた顔を見るとつらくなる。赤い顔がみたくて。

治武 もう兵十とは本当の友達にはなれないけども、ごんは兵十のことを自分の心の中にしまつておく。

結局新しい展開を作れないまま授業は終わった。ただ、個人学習の読みを課題を一斉学習で更に深めようとした、私なりの精一杯の取り組みではあった。